



角笛会会報

発行所

日本大学生物資源科学部
獣医学科校友会

〒252-0813

藤沢市亀井野1866
0466-84-3644

はじめに

校友の皆様にはご壮健の事と思います。
去る6月24日に湘南キャンパスにて、平成12年度総会も無事終了いたしました。本年は役員の改選で、新役員も決まり、気持ちも新たに会の運営に努力したいと思っておりますので、ご支援の程お願い申し上げます。何分にも総会の出席者が余りにも少なく、盛り上がりがなく誠に残念です。どうか総会に思う存分意見を述べられる場所ですから、多数の参加を希望いたします。

学部校友会も今までの状態を改め、「校友会の今後のあり方」の標題で各分会の意見の提出を求め、その内容を検討、実施できる項目から実行に移るべく計量されておりますので、角笛会に於いても下記の項目を提言しております。

- 校友会費の値上げ(入学時に徴収)
- 子弟の入学問題について
- 学術資料(史)の募集と資料館の整備
- 校友会(本部、各分会)事務局室の整備(合同場所が最良)

何れにしても、各分会より色々な提案が出ているので、できる項目より実行に移る様進めて戴きたい、それが校友会全般の発展に

ると信じます。

次に終身会費の件で、支部に名簿を送付、未納者に納入して戴く様お願いしてあります。実施には色々の困難も出ていると思いますが、会員の力を貸して戴かないとこの仕事は成功しませんので、宜しくお願い申し上げます。

獣医学も教育の改革で大変ですが、大変ではすみません。諸先生達が丸となって、この難関を突破し、充実した獣医学科を作り上げて下さい。本年を最後に農獣医学部名が消え学部名より「獣」の文字がなくなり、一抹の寂しさは取りぬぐいきれません。

ANMEC(家畜病院)もこの度充分とはいえませんが増築され、また、研修生等も増加されました。年収も1億4千万円以上の収入を上げ、病院長以下スタッフの先生方誠に苦労様でした。

お互いに健康に留意して元気で母校並びに角笛会の発展にがんばりましょう。

角笛会会長
日比野 次郎

今後の生物資源科学部 と獣医学科に期待して

生物資源科学部
次長 酒井 健夫

平成12年10月に創立111周年を迎えた日本大学は、建学の精神である自主創造の気風を有し、深遠に学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命として発展してきました。特に、社会の要請に 대응する特色ある教育内容を有

する大学に向けて、瀬山幸安総長を先頭に日々努力しています。このような日本大学の一員である生物資源科学部は、生物生産科学、環境科学及び生命科学の追究を教育・研究の目標として、社会の発展に必要な人材の持続的な育成に全力投球しています。また本学部は、佐々木恵彦学部長が提唱している21世紀の科学の新しい方向としてのDNA情報科学、バイオマス科学及び生物の多様性に関する科学分野を、新しい研究目標として、精力的にその基盤作りを図っています。このように本大学・学部が社会の状況を適確に捉えて発展するには、今日、社会において目覚ましい活躍をしている獣医学科卒業生である角笛会会員各位との有機的な連携が不可欠です。また、相互の協力によって、双方の限らない発展が期待されます。

一方、我が国の獣医学に対する社会の要請は、文化的な生活と社会経済の発展に伴い、欧米と同様に、産業動物、小動物、野生動物、公衆衛生及び家畜衛生に加え、アニマルセラピーなどの新しい動物介助療法など多岐・多様になってきています。これに伴い、卒後教育や生涯教育の導入、卒前・卒後教育の連携、高度な小動物獣医療の実践教育等が強く求められています。したがって、我が獣医学科も、これらの要請に応えるため、教育環境の整備充実と、獣医療の実務教育体制の強化を図ってきました。しかし、本学科にとって長期にわたる多くの入学志願者と、それに伴う優れた人材の受け入れに一層応えるためには、今日の課題である国際的教育基準を満たす獣医学教育環境の構築が必要です。特に、施設・設備並びに教員の充足をはじめ、学生の満足度の高い教育体制の整備など、大学の創意工夫と自助努力を図らねばなりません。どうか、今後の本学科の発展に向けて、角笛会の会員各位のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

銀写真フレーム)とが贈呈されました。

続いて食堂棟NUSCホールで開かれた懇親会には60名以上の校友が参加し、酒井次長が学部について、福田主任が学科に関してそれぞれ現況を報告しました。同僚校友会代表多数の御列席の中、近藤良三郎(拓殖学科校友会 拓友会会長 昭17)学部校友会副会長から学部校友会を代表した祝辞を頂戴後、歓談に入り、今年の料理は特に美味しい(?)という噂の中、午後6時過ぎに散会となりました。

平成12年度 角笛会 総会

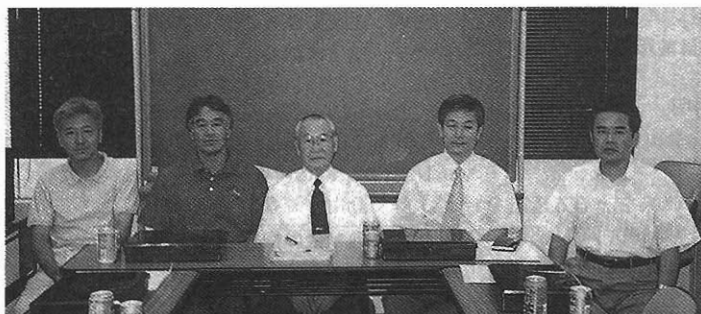
平成12年度角笛会総会が去る6月24日土曜日午後、湘南校舎第四講義室で開催されました。当初雨もようであったにもかかわらず、50名余の会員が、例年の様に全国各地から出席されました。先ず、議長に倉林恵太郎(東京都開業 昭36)氏を選出した後、事務局より11年度事業経過、収支決算、同監査結果(代表小暮規夫氏 東京都開業 昭24)の報告が行われ、総会により承認されました。平成11年度では、要請のあった多くの支部での総会などに対する大学教員派遣が、例年通り行われました。本学出身獣医師会長(9名出席 全11名)と新学部長(佐々木 恵彦 ささきさとひと 林学科教授 昭34東大卒)との懇親会が酒井健夫学部長(昭41)、福田陽一(昭36)学科主任、田中茂男(昭38)ANMEC院長を交え日比野次郎(昭14)会長、月瀬 東(昭40)、中川秀樹(昭40)両副会長の陪席の下に開催され、学部と角

笛会との対話の礎の一つとなりました。

平成11年度総収入は前年度比約5%減となり、各支出も減額しました。次いで平成12年度事業計画及予算が承認されました。平成12年度では従来と変わることなく校友と大学との結びつきの強化を図る一方、終身会員制度の強化を目指すことになりました。獣医学科卒業生は須く角笛会会員です。終身会員制度の促進と共に一般会員への支部による連絡に一層の便を図る為、終身会員名簿の作成とその各支部事務局長への配布が決議されました。予算は引き続き厳しい状況にあるとの認識の下に、緊縮財政運営を継続する事になりました。

また本年度は役員改正の期に当たります。会則に則り幹事会は新会長に日比野次郎(練馬区開業 昭14)前会長を選出し、総会により承認されました。副会長(3名)には月瀬 東(解剖学教授：

留任)、田村幸生(前橋市開業 昭45：新任)鳥海弘(伊勢原市開業 昭50：新任)各氏が決まりました。また会計監査(3名)では小暮監事に加え堀口隆嘉(武蔵野市開業 昭33：新任)、福田陽一(微生物学教授：新任)両氏が承認されました。総会后、会の発展に寄与戴いた校友六名に対し、日比野会長より感謝状と記念品(純



(写真説明) 新役員：左より

鎌田 事務局長、田村 副会長、日比野 会長、月瀬 副会長、鳥海 副会長

獣医学科の近況

○ 表彰, 受賞, 学位等の授与 ○

平成11年度の角笛会長賞が、平成12年3月24日の冴え渡った夜空の横浜、氷川丸船内で催された謝恩会の席上、下記の2名に日比野次郎会長から記念品と共に授与されました。受賞に際し、両君は「自分達がこの様な賞を頂けるとは望外のことでありました。偶々自分らが代表となって角笛会からの激励を受けたのだと思います。感謝の気持ちを忘れず、これからもがんばります」とのこと。両君の殊勝な発言に対し、囲む卒業生から拍手が湧きました。

..... 平成11年度 角笛会長賞受賞者

● 姿本 隆志(まつもと たかし) 君

獣医微生物学研究室

卒論テーマ

「不活化ワクチンの
柿タンニン処理について」

現 況：千葉県内で勤務獣医師として開業準備の武者修行に奮闘中。

人となり：姿本君は、性質温順で向上心に富む青年。結果よりも経過を重んずる性格で、この為、後輩の信任も厚かった。勉強に邁進する、という風は無く、友人らと励まし合いながら国家試験勉強を行っていた。真面目な性格の故、目的の達成を十全とすべく悩むこともあった。後輩同輩を率先して庇うことの出来る古風な日本男児の一面を持つ。今後は数年間の研鑽を経て後、開業獣医として立っていく所存である。他人の言によく耳を傾ける素直な人間であるので、校友諸兄の一層の激励をお願いしたい。

● 千葉 幸江(ちば ゆきえ) 君

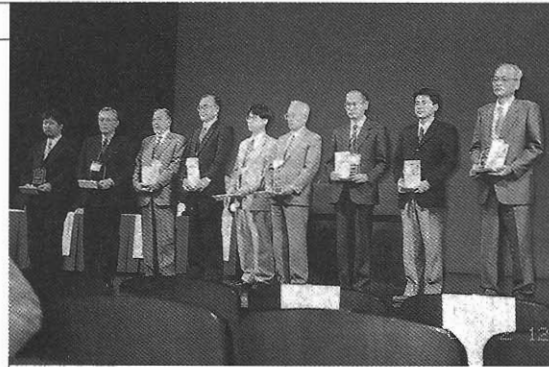
獣医病理学研究室

卒論テーマ

「牛の第四胃潰瘍における
内分泌細胞の免疫組織学的研究」

現 況：出身地の岩手県職員として、宮古地方振興局保健福祉環境部に所属し、現在、獣医師として、宮古保健所で食品業務係としての業務に携わっています。

人となり：千葉君は大変明るく健康で、入学後はソフトテニス部に所属してスポーツに親しみ、研究室に入室してからは産業動物の病変解明に積極的に取り組み、卒業論文となった牛の第四胃潰瘍の研究成果は6年生の秋に熊本で開催された第128回日本獣医学会に発表し、さらに学術雑誌に論文投稿するに至っている。真面目で勉強熱心なことはいうまでもなく、礼儀正しく、親切で、後輩からも大変慕われており、将来が期待される卒業生のひとりであり、今後とも先輩諸氏のご指導をお願いしたい。



(日本獣医師会 年次大会受賞式)

卒業生の石川路津子さんが総長賞、学部長賞を、柴未歩さんは学部長賞、猪口みどりさんは獣医師会長賞を授与されました。また、本学長谷川篤彦教授に学部長賞が授与されました。

平成12年2月、静岡県で開催された平成11年度日本獣医師会年次大会において、教授勝部泰次先生が公衆衛生部門「功労賞」、教授田中茂男先生(他5名)が小動物部門「奨励賞」、助教授亘敏広先生(他3名)が小動物部門「学術賞」を受賞されました。さらに、元教授の稲葉右二先生が産業動物部門「功労賞」を受賞されました。

今年度、論文を提出により

博士(獣医学)を取得された方たちは、藤田桂一氏、黒木俊郎氏、竹内哲也氏の3名です。



○ 学年担任

- 1 年次：金山喜一教授(獣医生理学)
伊藤卓立助教授(ドイツ語)
上床和弘講師(獣医伝染病学)
- 2 年次：月瀬 東教授(獣医解剖学)
森友忠昭講師(魚病学)
- 3 年次：中西照幸教授(魚病学)
丸山総一助教授(獣医公衆衛生学)
- 4 年次：田中茂男教授(獣医外科学)
小坂俊文講師(獣医外科学)
- 5 年次：渡部 敏教授(獣医生理化学)
野上貞雄助教授(医動物学)
- 6 年次：武石昌敬教授(獣医臨床繁殖)
木村順平助教授(獣医解剖学)

○ 退職

勝部泰次教授(獣医公衆衛生学)
岡野真臣教授(獣医組織発生学)
井上 勇教授(医動物学)
高玉清恵副手、中山陽子副手

○ 昇格・移動

湯川真嘉先生(実験動物学):助教授→教授
浅野隆司先生(獣医薬理):助教授→教授
村杉栄治先生(第2内科):助教授→研究所教授

○ 新任

中西照幸教授(魚病学)
渋谷 久専任講師(獣医病理学)
大谷 功助手(獣医生理学)
椎橋 孝助手(医動物学)
中村遊香助手(獣医内科学)

獣医師国家試験

第51回獣医師国家試験の結果が平成12年3月21日に発表されました。生物資源科学部からは新卒者143人が受験、128人が合格しました。合格率は89.5%で、全国平均の82.0%を大幅に上回りました。

新任教職員紹介

氏 名：中西 照幸(教授)

生年月日：昭和24年4月26日

血液型：B 型

出身地：和歌山県有田郡湯浅町

卒業大学：北海道大学理学部

(大学院) 北海道大学水産学研究所

博士課程単位取得後退学

前職場：農林水産省水産庁 養殖研究所

病理部免疫研究室

研究テーマ(現在、あるいは前職場)

- ・ 魚類の免疫機構
- ・ 特に細胞性免疫機構の解明

趣 味：テニス、スキー、登山

日大での今後の抱負

学生にとって、面白い、興味をそそる講義を心がけたいと思っています。研究面では、獣医学領域において魚類を中心とした比較免疫学を発展させたいと考えています。また、若い研究者にとっていい仕事ができるように研究環境の整備、研究交流の活性化に努めていきたいと思っています。



氏 名：渋谷 久(専任講師)

生年月日：昭和38年2月5日

37歳

血液型：A 型

出身地：千葉県船橋市

卒業大学：日本大学(昭和62年卒)

(大学院) ミズーリ大学大学院獣医病理学博士

課程修了

前職場：ミズーリ大学獣医学部

研究テーマ(前職場)

- ・ 犬や牛の遺伝性疾患における遺伝子変異の同定
- ・ 犬のDNA type I markersの同定と
- Genome linkage mapへの導入
- ・ DNA markersによる優良牛選定の研究など

趣 味：登山、読書

日大での今後の抱負

質の高い教育と研究をバランスよく両立させたいと思います。



獣医学科の近況

本学で開催された獣医学関連学術セミナー

日時：2月28日（月） 16：00～18：00

会場：10号館，第4講義室

演者：Dr. Johannes M. Dijkstra（農林水産省養殖研究所ポストドクトラルフェロー）

演題：Expression of MHC class I and Ubiquitin genes in rainbow trout, DNA immunization in grass catfish

日時：3月18日（土） 16：00～18：00

会場：10号館の第4講義室

演者：Prof. Christopher J. Secombes（英国Aberdeen大学教授，Fish & Shellfish Immunology Editor）

演題：Current status of Fish Cytokine studies

日時：3月31日（金） 11：00～12：00

会場：10号館，第4講義室

演者：小沼 操先生（北海道大学大学院獣医学研究科・感染症学教室・教授）

演題：「ダニの吸血を阻害するワクチンの開発」

日時：4月28日（金） 17：30～19：30

場所：6号館，2階，622実習室

演者：渋谷 久先生

演題：犬のゲノムプロジェクト

演者：大谷 功先生

演題：サル免疫不全ウイルス（SIV）感染によるリンパ節の病理学的変化

日時：6月29日（木） 13：00～2時間程度

場所：1213実習室

演者：下地善弘先生（農林水産省 家畜衛生試験場 製剤研究部 生理活性物質研究室）

演題：「豚丹毒菌：病原因子と宿主防御機構」

演者：宗田吉広先生（農林水産省 家畜衛生試験場 製剤研究部 生理活性物質研究室）

演題：「豚インターロイキン18のクローニングと発現：その利用に向けて」

日時：7月15日（土） 14：00～15：00

場所：622実習室

演者：Dr. Sumalee Boonmar（タイ王国，カセサート大学獣医学部，助教授）

演題：カセサート大学における獣医学教育とタイ国の食品衛生事情

日時：8月1日（火） 13：00～

場所：622あるいは614実習室の予定

演者：松山知正先生（鹿児島大学大学院連合農学研究科）

演題：魚類好酸性顆粒球の炎症反応における役割

日時：8月29日（月） 14：00～16：00

場所：日本大学生物資源科学部 10号館第4講義室

演者：Dr. Bruno B. Chomel（カリフォルニア大学デビス校獣医学部教授）

演題：1）Emerging and re-emerging bacterial zoonoses

2）Human and animal infections by *Bartonella* species: an update

平成12年度

ワシントン州立大学

夏期獣医臨床研修を終えて

獣医学科教授 田中茂男

日本大学の姉妹校であるワシントン州立大学獣医学部における夏期獣医臨床研修が，7月23日～8月6日の2週間にわたり開催されました。10回目にあたる本年度は，5年次学生29名が参加し，「小動物医学・神経コース」，「小動物・エキゾチックアニマルコース」，「馬医学コース」の3コースに分かれて実施されました。各コースとも実技を主体とする内容で，毎朝8:00～午後16:00間で行われ，しかも小グループでの親切丁寧な実技指導に参加学生も大変満足した研修を受講することができました。臨床研修の修了試験には，参加学生が全員合格し，修了式には一人一人に修了証が交付されました。

この臨床研修の期間中には各種の行事も企画され，ワシントン州立大学の教員や学生との交流を深めるとともに，アメリカの文化や習慣を肌で学ぶ貴重な機会となりました。

本研修は単位互換の覚書に基づいて実施されており，本年度は新たな覚書の更新の年にあたり，学部長の佐々木恵彦教授が調印式にワシントンにお越しになり臨床研修の現場も視察いただくことができました。参加学生には本学獣医学科の小動物または産業動物のいずれかの臨床演習のIVおよび、の単位が認定されます。

（引率教職員：田中茂男，木村順平，加納壘，宮武康弘）

氏 名：大谷 功（助手）

生年月日：昭和43年11月11日

31歳

血液型：+O型

（平成12年11月現在）

出身地：大分県大分市

卒業大学：日本大学（平成6年卒）

（大学院） 東京大学大学院博士課程修了

前職場：東レ株式会社医薬研究所

研究テーマ

現 在：ウサギを用いた生殖生理に関する研究など

前職場：オピオイド開発医薬の薬理学的研究
大学院：サル免疫不全ウイルスのリンパ節の病理学的解析

趣 味：旅行，スキューバダイビング

日大での今後の抱負

学生の隠れた才能を引き出し伸ばしていきたい。



氏 名：椎橋 孝

生年月日：1971年8月22日

29歳

血液型：A型

卒業大学：日本大学（平成9年卒）

（大学院） 鹿児島大学大学院連合農学研究科

研究テーマ：魚類好中球におけるNADPH酸化酵素の存在および機能に関する研究

現在のテーマ：寄生虫症における感染防御機構に関する研究

趣 味：読書，アウトドア

日大での今後の抱負

母校である日大獣医学科に戻ることができました。今後は獣医領域の進歩発展に貢献できるようがんばりたいと思います。



氏 名：中村 遊香

生年月日：昭和38年6月21日

37歳

血液型：A型

出身地：東京都

卒業大学：日本大学（平成2年卒）

（大学院） 帝京大学医学部皮膚科

研究テーマ：皮膚科感染症，育毛，皮膚血流障害

趣 味：日曜大工，マリンスポーツ

日大での今後の抱負

臨床現場で即戦力となる獣医師の育成と臨床に有用な研究を実践したい。

自己紹介：本学卒業後10年間，帝京大学医学部皮膚科に在籍しました。医学部の臨床系講座での仕事は，医師と獣医師の相互協力に必要な人的，学問的ネットワークの端緒を開くことが出来たと思います。また，実家（獣医科病院）にて小動物の臨床に従事した結果，雇用者，被雇用者双方の立場から，臨床現場で求められる獣医師像を見ることができたと思っています。この経験の本学で活かせるようがんばりたいと思います。



獣医学科入試 入学状況

現在、本学では種々の方法で入学者の選抜が行われていますが、獣医学科のそれぞれの受験状況は以下の表に示すとおりです。

平成12年度 入試状況

入試事務局から公表された平成12年度の入試（平成12年春入学）受験者、および合格者の結果は表1のようになりました。本学獣医学科志願者数は、昨年度はじめて減少に転じましたが、今年はさらに厳しい状況となりました。本校入試では、平成10、11年度の競争率がそれぞれ26.5、24.6倍であったものが、12年度は23.5倍となり、近年の少子化にともなう18才人口の減少問題が如実に現れた結果となりました。しかしながら他学科に比べ、本学獣医学科の人気は依然として圧倒的に高いものであります。実際の入学者は165名（女子90名）であり、特に女子学生の増加がめだった年となりました。

また、詳しい入学試験概要や合格者の試験成績の最高、および最低点などの入学試験データは、平成13年度日本大学生物資源科学部入学試験案内として入試事務局より刊行されています。また、同様の内容がインターネット上の本学部ホーム

ページ(<http://brs.nihon-u.ac.jp>)にも掲載されております。ご子弟などで受験を希望される方がいらっしゃれば、これらをご参照頂きたいと思えます。なお、10月21、22日(土、日)の大学祭(藤桜祭)期間中、湘南キャンパスにおいて進学相談会が、また、5月26日(埼玉県大宮)より11月20日(東京都新宿)まで、全国各地で進学相談会が開催されております。受験生の目的意識の向上、および入学試験の情報収集のために是非ご利用下さい(問い合わせ先:入試事務局;電話0466-84-3812)。

また、平成12年度新入生の出身県別人数を表2にまとめてみました。例年同様の傾向ですが、神奈川県と東京都出身者併せて80名と約半数に達し、関東地方出身者では117名となりました。

以上の激戦を勝ち抜いて本年度獣医学科に入学した1年生は164名(男子69, 女子95)でした。

表1 平成12年度入試状況

入試区分		募集人員	受験者数	合格者数	本年度倍率	前年度倍率
一般入試	本校試験	50	2,207 (1,092)	94 (53)	23.5	24.6
	地方試験	10	590 (294)	30 (18)	19.7	25.5
一般推薦	指定校制・普通科	学部全体で77	24 (16)	14 (11)	1.7	1.6
	指定校制・関連産業後継者	学部全体で33	1 (0)	1 (0)	1.0	1.0
	普通科・専門(職業)学 科・総合学科	学部全体で66	50 (35)	8 (7)	6.3	6.6
	関連産業後継者	学部全体で33	16 (6)	7 (3)	2.3	2.3
	技 能	学部全体で22	8 (6)	2 (2)	4.0	7.5
付属高校推薦			23	23		
合 計			2,919	179		

表2 新1年生の県別出身者数

県 名	人数	県 名	人数	県 名	人数
神奈川県	46	静岡県	3	山 梨 県	1
東京都	34	兵庫県	3	石 川 県	1
埼玉県	16	新潟県	2	福 井 県	1
千葉県	9	滋 賀 県	2	三 重 県	1
茨城県	7	京都府	2	広 島 県	1
愛知県	7	鳥取県	2	山 口 県	1
大阪府	4	福岡県	2	香 川 県	1
奈良県	4	北海道	1	大 分 県	1
栃木県	3	宮城県	1	長 崎 県	1
長野県	3	群馬県	1	宮 崎 県	1

ANMECだより

ANMEC支援基金運用小委員会委員長
中川 秀樹

平成7年6月18日に開催された角笛会総会に於いて、CTスキャナーをANMEC(日本大学動物病院)へ寄贈するための記念事業の余剰金を「ANMEC支援基金」として研究奨励金の支給、専門研究者の招聘、寄贈CT周辺機器整備として運用することが決議された。これに伴い日比野会長、中川副会長、津曲事務局長、酒井教授、田中教授の5名をもって運用のための小委員会を設置することが承認された。小委員会は助成希望研究を公募して、ANMECの診療に反映されると思われるテーマを論議の上で選出し研究奨励金の支給を行ってきた。

5回目の今年度は5題の研究応募の中から、鯉江 洋助手(平2, 日大卒, 総合臨床獣医学研)の「犬の僧帽弁閉鎖不全症における心エコー検査と心房ナトリウム利尿ペプチド(ANP)の関連性について」と浅野和之助手(平3, 北大卒, 獣医外科学研)の「ANMECにおけるインターベンショナル・ラジオロジー(Interventional Radiology)による低侵襲治療法の確立」の2題が有用性が極めて高いとの小委員会の結論により、それぞれに30万円と20万円を研究助成することが決定し、平成12年6月24日の角笛会総会において授与された。

求人 の お願い

女子学生の増加に伴い、小動物臨床の勤務医を希望する者が増えています。会員からの求人申し込みは学部就職指導課ならびに6年次担任(武石昌敬教授、木村順平助教授)までご連絡ください。

平成11年度 ANMECセミナー (第43回～第54回)

第43回 (H11.4.19開催)

参加者189名(外部:10名・内部:179名)

症例報告;

- ①小坂俊文: ANMECでのCVP-Xによる犬の悪性リンパ腫の治療成績(その1)
②津曲茂久: 犬の前立腺膿瘍の1症例

教育講演;

桑原正人: 明日の臨床に役立つ読影技術
(その1・後腹膜三腔の腫瘍病変)

第44回 (H11.5.17開催)

参加者139名(外部:6名・内部:133名)

症例報告;

- ①田副真澄・田中愛子: 犬における線維腫の1症例
②芝田守孝・村松真人: 犬の肩関節離断性骨軟骨症の1症例

教育講演;

巨 敏広: 止血・凝固系検査の進め方

第45回 (H11.6.21開催)

参加者205名(外部:37名・内部:168名)

教育講演;

Dr. Dennis Olsen(カンサス州立大学):
小動物の腫瘍外科
通訳: 直井昌之 先生

第46回 (H11.7.26開催)

参加者76名(外部:10名・内部:66名)

症例報告;

- ①浅野和之: イヌの動脈管閉存症における心エコー図計測値および血漿ナトリウム利尿ペプチド濃度の変化
②加納 聖: イヌの腎泌尿疾患における尿中FDPについて

教育講演;

竹内 啓: 小動物診療における先端医療と獣医倫理について

第47回 (H11.8.23開催)

参加者56名(外部:8名・内部:48名)

症例報告;

- ①宮守美由紀 他: 播種性血管内凝固症候群のみられた乳腺腫瘍の犬の1例
②谷内 愛 他: 高カルシウム血症を伴った悪性リンパ腫の犬の1例

教育講演;

加納 聖: 真菌症への分子生物学的アプローチ

第48回 (H11.9.20開催)

参加者79名(外部:8名・内部:71名)

症例報告;

- ①佐野順一 他: 脊椎炎が疑われた犬の1症例
②畑真美子: 骨盤骨折治療後の骨盤狭窄修復術を行った1症例

教育講演;

浅野和之: 小動物の心疾患の診断および心機能評価に関する2つのトピックス
—ナトリウム利尿ペプチド・ドブラ心エコー図法について—

第49回 (H11.10.18開催)

参加者97名(外部:4名・内部:93名)

症例報告;

- ①坂井 学 他: 犬の免疫介在性多発性関節炎の1例
②満田千賀・永田雅彦: 酢酸クロルマジノン使用後に生じた医原性クッシング症候群の1例

教育講演;

壁谷英則: ウシ白血病ウィルス感染症における病態の進行と宿主免疫応答

第50回 (H11.11.15開催)

参加者83名(外部:6名・内部:77名)

症例報告;

- ①宮崎良雄: 犬の水腎症の2例
②田中茂男: 犬の会陰ヘルニアに対する固有総鞘膜(内精筋膜)を利用した再建術

教育講演;

伊藤琢也: 動物の非特異的生体防御機構における
貪食細胞の役割
— 活性酸素による殺菌を中心に —

活躍する卒業生・1

■ 渡辺 弘(昭和59年卒)

釧路地区農業共済組合標茶支所虹別診療課

私は大動物の臨床獣医師を目指し獣医科大学に入学したのですが、卒業時なんとなく受験した公務員試験に合格し、農水省に就職してしまいました。公務員時代は中央官庁も、地方の牧場の勤務も経験し、それなりに楽しく、貴重な体験ができたのですが、約5年間勤務した後、元来の希望であった大動物の臨床獣医師をめざし12年前に釧路地区農業共済組合に転職しました。現在は釧路市北部にある標茶町虹別の家畜診療所に勤務しております。我が診療所管内は酪農専業地帯で、診療のほとんどは乳牛で、約1万頭の乳牛を6名の獣医師で診療にあたっています。

我々の管内でも乳価の下落、後継者等の問題から、離農が進み、年々農家戸数は減少しつつありますが、規模拡大により1戸当たりの飼養頭数は急速に増加しています。そのためか、自給飼料の不足、畜主の管理不足からか、ここ数年疾病は増加しています。特に、第4胃変位が増加し、毎日手術に追われています。

近年は個体診療中心の「病気を治す獣医師」から、(もちろん、これが、我々のメインの仕事なのですが)飼料の問題、疾病の予防、農家の経営等まで、幅広い知識を持ち、それを統合できる能力が求められつつありますが、日々の診療業務に追われ、

これらの業務がなおざりとなる日々が続いています。

さらに、農業(酪農)自体の先行きの不透明感から、我々の仕事もけって「明るい未来」とはいきそうもなく、仕事ではなかなか厳しい状況にあります。しかし、生活面では、私にとっては最高のフィールドで、「春の山菜採り」「畑作り」に始まり、カヌー、シーカヤック、テニスに釣り、冬にはスキー、アイスホッケーと遊ぶことにはことかきません。特に釣りでは、当地虹別は摩周湖の伏流水が湧き出す水源で西別川を有し、ルアーマン憧れの地として有名です。

ここでの仕事は都会の職場に比べればストレスも少なく、私にとってはなかなかよい職場を選んだものだと考えています。先のことはわかりませんが?

〈職場の外景〉



活躍する卒業生・2

■ 森田 幸雄(昭和60年卒)

群馬県衛生環境研究所



本学を卒業とともに群馬県庁に入庁して15年になります。食肉衛生検査所、保健福祉事務所を経験し、本年4月から群馬県衛生環境研究所細菌課で働いております。食肉衛生検査所では、残留抗菌性物質や腸管出血性大腸菌O-157対策、そして対米牛肉輸出業務等、保健福祉事務所ではHACCPシステムを取り入れた食品製造施設の監視や学校動物医制度等、毎年のように新規事業が増えておりました。そして、本年、衛生環境研究所に異動し、主に食品衛生業務に携わっております。本年は猛暑であるため食中毒も多く、さらに数々の食品に関する事件により食品に対して国民の関心も高い状況です。研究所に送られる検査数も昨年を大きく上回る状態であるばかりでなく、検査依頼内容も多種多様です。

検査結果も正確なうえに迅速性が求められ、本日、検査・報告した内容が帰宅途中の車のラジオから聞こえてくることもあり、試験検査の精度管理を身にしみるように感じている毎日です。研究に対しては大学の研究室、そして諸先輩方にアドバイスを頂きながら実施しており、本分野において多くの知人・友人を持っていることは私の財産となっております。

第51回 (H11.12.13開催)

参加者110名(外部:11名・内部:99名)

症例報告:

①阿部葉子:犬の急性肺炎の1例

教育講演:第1回マニアルシリーズ

巨 敏広:臨床例における血液塗抹標本の見方・考え方

第52回 (H12.1.17開催)

参加者133名(外部:8名・内部:125名)

教育講演:第1回臓器別疾患シリーズ

呼吸器疾患:気管・気管支の病気

山谷吉樹(コーディネーター)

木村順平(解剖学) 浅野隆司(薬理学)

金山喜一(生理学) 佐藤常男(病理学)

第53回 (H12.2.21開催)

参加者114名(外部:7名・内部:107名)

症例報告:

①酒田 昭:犬の足根関節において関節固定術を実施した2症例

教育講演:第2回マニアルシリーズ

加納 暁:尿検査について

第54回 (H12.3.27開催)

参加者112名(外部:10名・内部:102名)

教育講演:第2回臓器別疾患シリーズ

猫の心筋症の病態と治療について

1)木村順平(解剖学):正常猫心臓構造および血栓発現部位

2)鯉江洋(総合臨床診断学):心筋症の検査(血液検査、レントゲン、心エコー図)とその所見の解析

3)金山 喜一(生理学):猫肥大型心筋症時の心機能変化(とくに心拍出力量に関して)

4)佐藤 常男(病理学):心筋病理所見

5)浅野 隆司(薬理学):代表的な治療薬

会員の声

「因時制宜」・「因地制宜」
新世紀における
家畜防疫の新観念?

獣医伝染病学研究室 教授 藩 英仁

「教科書は“バイブル”なり、その蔭に権威あり」。教科書の権威は、処構わず、時代を選ばず、普遍的に全世界に及んで来た。海外伝染病の侵入と発生とに對し、それを撲滅し、元の清浄状態に戻す、そしてその後は再度の病原体侵入を水際防禦により断固阻止し、一方では、国内産業動物の清浄化を一層推進する、というのが、このバイブルの至上命令である。筆者自身も獣医師としての誇りを重んじ、それに同調して来たが、西アフリカでの伝染病の撲滅作業に従事している中に或る疑念が湧き始め、1997年の台湾における豚口蹄疫の突発で、益々その念を強くした。そして、今年の韓国と日本での牛口蹄疫の同時発生、特に後者の発生の様相を見るに及び、来る21世紀、即ち人と物量の流入が一段と激しくなるWTO(世界貿易機構)時代に相応しい防疫観念を新たに立てなければならないと考えるに至った。

台湾は、戒厳令下の鎖国的状態の中で、過去半世紀の長きにわたって、海外伝染病の侵入は皆無であった。しかし民主化・自由化に伴い、人・物流入の洪水に乗ったウイルスの侵入を許した。韓国も類似の轍を踏んだ。日本に至っては、密輸入・密入国の危うい現状など周知の通りであり、厳しい検疫にも拘わらず、ウイルスの侵入を防げなかった。ここに来て、「清浄区」の意義について考え直さざるを得ないのである。

「畜産立国」の国は、「清浄区」の三字が立国の拠り所であるが為に、伝染病の発生に對し、あら

ゆる手段を講じてでも清浄区に戻さなければならぬ明らかな理由がある。しかし、そうでない国、又は国の財政を畜産品輸出に頼らない国にとって、「清浄区」は如何程の意義があるのかを新たに咀嚼して見る必要があろう。ワクチン接種の積極的停止措置などを行って、わざわざ「無抗体」の無防備状態にし、絶え間なく、そして防ぎようの無い病原体侵入の危険に取って家畜を曝す行為のメリットは何処に在るのかと、畜産家に代って疑念を呈する専門家が出現しても不思議ではない。

環境が時代に伴って大きく変容した今日、少年法と云うバイブルの改正の動きは、「少年」に対する観念の修正が必要になったことの示唆である。我々の従来の家畜防疫観念も、「無国境」をもたらすWTOの時代・環境に對し得るものに新しくしなければならないだろう。

「防ぎようがない」状態が解消されるまで、旧時代の防疫観念は暫らく文献の中で一休みして貰うしかないのではなかろうか? このことはいずれ、水面下で炭火の様に静かに、しかし熱い話題に成り続けるであろう。



支部会だより

ブラジル支部

支部長 小森 広

先般、湘南校舎にて角笛会々長、副会長会議が開催され、総会の決議を得、今年度会長(四期目)を指名されたそうで、先ずはおめでとうございます。

副会長三名も指名され、また事務局長も引き続いて勤続の由、これからの活動を含め、海外に居ります我々の存在も積極的にお認め戴き、お陰様に幅広い範囲での角笛会の動向を会員に広報出来、角笛会は獣医学科にとりまして、この上無い機関と存じております。

御承知の様に、生物資源科学部は獣医関係でサンパウロ州立総合大学と学術交流を結んでおります。現在までの所、酒井健夫教授を主とした予防獣医学に限定されている様ですが、もう少し熱帯獣医学を志す学生もいてよいのではないかと存じますものの、しかし、なかなかいい様です。

やはり学術交流となると相手あつてのことで、すから、人的交流がもっとも必要ではないでしょうか？

貴会報に拙文を掲載して戴くとのことですが、大変に光栄に存じます。

此処に当地に於ける角笛会員の動向をお送りしますので、よろしくお取り計らい下さい。

簡単ながら、貴会の今後益々の発展と会長を始めとする会員の皆様の御健康、御繁栄をお祈り致します。

以上

2000年9月12日

ブラジルに於ける角笛会員の動向

1. 小林富久夫(昭和19年5月東獣卒)

1970年代までは、サンパウロ市より650kmの奥地に所在する。日系人経営による種鶏場の専任技師として勤務していましたが最近、連絡無し。

2. 山本省吾(昭和30年卒)

旧コチア産業組合の畜産課長時代に採卵鶏米国产キンパー種の輸入に踏み切る(1961年)。日本養鶏界では、この後年に輸入が始められた。現在フリーで、熱帯養鶏の専門技師としてその名声高く、隣国ボリビア、パラグワイに技術指導を続けている。

3. 小森 広(昭和31年卒)

飼料添加剤ビタミン・ミネラル製造販売。

現在、小動物(犬猫用)3種類が好評を得ている。数年前から人用の骨粗鬆症予防(治療にも応用)目的でヘルス・プラス発売。国内はもと

より、米国、メキシコ、日本、ドイツ等に商談が進められており、F.D.A登録も年内可能と情報が入っております。

4. 相良満夫(昭和34年卒)

ニナス・ゼライス州。ペロオリゾンテ連邦大学獣医学科で検定合格獣医師取得。

サンパウロ市ピニエイロス区に於いて、小動物診療所経営、現在に至る。

5. 牛尼貴国(昭和37年卒)

サンパウロ州立総合大学獣医学科で検定合格獣医師取得。

サンパウロ市サントアマーロ区にて、小動物診療所を経営、現在に至る。

6. 吉沢章吾(昭和45年卒)

上記、相良満夫獣医師と同じミナス州ペロオリゾンテ連邦大学獣医学科で検定合格獣医師。サンパウロ市の隣接都市、ダボンダ・セーラ市にて小動物診療所経営、現在に至る。

福岡県支部

事務局長 草場 治雄(昭和47年卒)

福岡県は、政令指定都市二つを抱え、九州地区の牽引役を果たしている。小倉を中心とした北九州市、博多を中心とした福岡市、自然豊かな筑豊地区、プリジストンに代表される久留米や文学の香り高い柳川、かつての石炭王国大牟田等々、歴史と文化につつまれた由緒ある地域が多い。

獣医師会組織においても、福岡県獣医師会、北九州市獣医師会が法人組織であり、福岡市獣医師会は政令市獣医師会として、法人同様の社会活動を行っている。これらの要職には、角笛会の同窓が就任され活躍中である。支部長蔵内勇夫氏(昭54卒)は県獣会長であり、日本獣医師会理事。副支部長石山寿夫氏(昭19卒)は県獣副会長、幹事の浜地昌治氏(昭41卒)、山田祐治氏(昭46卒)は県獣理事として活躍。浜地氏は福岡市動物園園長でもある。安藤光一氏(昭45卒)は九州産業大学教授であり、平成12年度九州地区獣医師大会(獣医三学会)の開催にご尽力された。大林清幸氏(昭47卒)は北九州市獣医師会副会長、日本小動物獣医師会理事。また筆者も福岡市獣医師会副会長として職務を遂行してい

る。森友忠生氏(昭25卒)は副支部長として角笛会をまとめるとともに、北九州角笛会の牽引役としてご活躍されている。また同氏は、元動物園園長であり、その経験を生かし、講演や執筆活動に多忙である。

本支部は、毎年10月、総会および懇親会を開催している。昨年は、大学より田中茂男教授をお招きし、新しい会陰ヘルニアの手術法を学ぶことができ好評であった。幹事会の運営や総会、懇親会では、北九州市獣医師会の元理事、一本木清文氏(昭47卒)の力が大きい。彼は東獣出身の先輩方の信頼が厚く、湘南出身の若い後輩からも慕われている。本支部は同窓としての心の絆を培い、母校を愛し、母校の発展を願い、会の交流を深めたいと思う。母校の先生方のご協力、ご支援を感謝いたします。



平成11年度 日本大学角笛会福岡県支部総会

東京都支部

事務局長 倉林恵太郎(昭和36年卒)

正式の名称は、「東京都支部」ですが会員には「東京角笛会」ですべてをとおしています。

役員は、日比野次郎会長をはじめ、副会長2名、事務局長1名、幹事74名、監事2名で会務を行っています。

役員会は、年間5回ほどで、このうち2回は役員に文書を送付して意見を求めるいわゆる書面役員会です。

会員数は過日、角笛会事務局から終身会員の既納者と未納者の名簿を受けましたので現在、増えて1,000名ほどで、事務局はじめ役員で鋭意情報を集めています。東京角笛会の会員には「会員カード」(氏名・フリガナ、生年月日、卒業年、郵便番号と住所、電話、FAX、開業または勤務先の名称所在地と電話、事務局用の会費納入記入欄)を毎回、提出頂いていない会員が多いのが実態です。

総会とセミナーは、毎年1回、同日に開催しています。午後1時より30分ほど総会を開催し、そのあと5時までセミナー、セミナー終了後、懇親パーティーを行っています。なお総会前に役員会を行っています。会場は交通便利なJR新宿駅ビル8階のブチモンドです。平成12年度の総会セミナーは7月30日(日)でした。

平成12年度のセミナー講演は「両棲類、爬虫類の概念、飼育、医療」(リチャードC. ゴリス先生・日本爬虫両棲類学会会長)、「犬の僧帽弁逆流におけるLA/AO比と血漿ANP値の関連性」(鯉江洋先生・日本大学総合臨床獣医学研究室)、「ANMECにおけるインターベンショナル・ラジオロジーによる低侵襲治療法の確立」(浅野和之先生・日本大学獣医外科学研究室)でした。

新年会は、毎年、曜日に関係なく1月10日に新宿の総会とセミナーと同じ会場で開催していて今年も開催しました。会員や獣医関係者に景品を寄付して頂き、東京角笛会から熱海温泉ベアの宿泊券2本を加えて、賑々しく新春を占うという福引きを大々的に行います。平成14年の新年会は久しぶりに多摩地区で行う予定になっています。

会報「東京角笛会」は、毎年2回発行しています。内容は総会、セミナー、新年会の通知はもとより、会員氏名、獣医学科の研究室と教職員、角笛会報告、日本大学獣医学会案内と開催報告などです。2回目の会報は、角笛会の会報とともに会員に送っています。

年会費は角笛会が1,000円、東京角笛会が2,000円で計3,000円です。平成5年以降の卒業生の終身会員は、東京角笛会の会費だけです。会費などは郵便振替口座を設けてありますので、青色の振込料振込人負担の用紙でお願いしています。そして角笛会の会費として納入を受けた金額はすべて、角笛会に納入しています。

角笛会との連絡は、可能なかぎり密に行っています。東京角笛会の会員の異動を知った場合に即、連絡をいたします。とくに日比野会長は日本獣医師会の会誌に掲載される消息をチェックされています。このように角笛会には可及的正確な情報が集まるようにして、つぎに発行する名簿の正確を期しています。このことについては、会員に異動があった場合、速やかに事務局に通知をお願いしています。

(平成12年8月8日 記)

話題

口蹄疫雑感

実験動物学教授
門井 克幸
(昭和37年卒)

人のエイズ(後天性免疫不全症ウイルス感染症)は、非加熱性血液製剤の一部に病原ウイルスの汚染があったことから、痛ましい医原病患者が発生し、当時の厚生行政の欠陥が指摘されましたのは記憶に新しいところです。エイズの様な人の疾病に比べて、家畜の感染症は、一般人には知られる機会は多くありません。ところが、今年になって、日本ではあまり馴染みの無かった口蹄疫という病気がいろいろな意味で獣医・家畜関係者以外にも知られる様になりました。口蹄疫というウイルス性伝染病は古くよりヨーロッパ、中近東、アフリカ地域に蔓延していた疾病で、肉類を主食としたこれら地域の人々には広く知れ渡っていましたし、牛、豚、羊などの偶蹄類のウイルス性感染症として最も恐れられている伝染病です。この病気は日本でも、明治44年に海外から導入した牛が検疫所で発症したと記録されているだけで、長い間、全く他国の感染症として考えられてきました。ところが1997年3月に突然、台湾の豚に本病の大発生が起こりました。それまで、本病の汚染の無かった台湾では、400万頭余の豚を殺処理し、感染の疑いのある牛も殺処理されました。たった1つの伝染病に依って、台湾の畜産は壊滅的な打撃を受け、その残り火は未だにくすぶっている有様です。

私は日本政府の海外技術協力計画の口蹄疫専門家として、1971年から約2年間エジプトの発足間もない口蹄疫研究所に赴き、口蹄疫発症パッファローの舌病変組織の採取、ウイルス分離、血清型別、不活性ワクチンの試作などを指導したことがあります。現地では口蹄疫の伝染力の速さからSailing diseaseと呼ばれていました。エジプトでの業務で体調を損ない、日本に帰国し、母校日大の駿河台病院で1年間の加療を受けた後は更に口蹄疫の研究を続けるため、米、英、独、伊の4カ所の研究所に自分の希望を連絡し、最初にオファーの来たイタリアに渡り、1978年に母校に奉職するまで、パドバ大学の獣医学研究所で口蹄疫ウイルスと豚水疱病ウイルスの研究に没頭した事があります。その間、トルコで開かれたヨーロッパの口蹄疫撲滅委員会の会議に日

本政府のオブザーバーとして出席し、各国の経験豊かな代表者と一緒の一週間の旅をイスタンブールからアンカラまでしたことがあります。その当時には、台湾に発生をみた様な激しい豚の症例はいずれの国でも経験しておりませんでした。1993年にヨーロッパの1ヶ所までほぼ皆無の状態に推移しました。たぶん、静かな遺伝子の変異が起きていたのでしょう。これはあくまでも私の私見ですが、台湾の畜産界が本病発生以前の状態に復帰するには、10年以上の歳月が必要だと思えます。

不幸にも、本病は今年3月に韓国と九州の宮崎市の牛に突然発生し、5月には北海道の本別町にも発生しました。韓国のケースでは、2000余頭の牛が殺処理されたと報道されています。宮崎と本別での事件は現在鎮火し、移動制限も解除されました。殆ど人間を発症させない(世界中で、数例の実験室内感染例が報告されています)この疾病が、これほどに獣医・家畜関係者に重要視されるかと言いますと、この疾病は、ウイルス性感染症の中でも、飛び抜けて伝染性が強く、一度その蔓延を許してしまった後では、撲滅に極めて高価な代償を長期間に亘って支払う必要があるからです。この疾病が常在するという事は、その国の獣医畜産行政のレベルの低さを示すだけでなく、関連物資の輸出にまで影響をおよびます。過去に本病の蔓延に苦しんだヨーロッパ諸国では第二次大戦後に設立した本病撲滅委員会を基に長年に亘って共同の撲滅作業に多大の経費と労力を費やし、数年前にはほぼ撲滅に成功しました。それ故、今回の日本での本病の発生から我々は多くの事を学ばなくてはならないと思います。価格が安いからと言って、本病常在地域から飼料や稲わらや乾草などを輸入するには多大のリスクが伴います。

現在日本の家畜の感染症として常在している疾病の多くが、能力が優れているとの理由で国外から導入された家畜と共に持ち込まれた可能性が高い事は先人の指摘しているところであり、地球上には人畜を問わず、日本人がこれまでに経験した事の無い危険な感染症が多々あります。例えば、米国の疾病予防センター(Centers for Disease Control and Prevention)からの情報によれば、本来、エジプトのナイル川流域が流行地であったはずの「西ナイル熱」ウイルスの感染が昨年よりニューヨーク市にも起こり、死者まで発生したとの事です。多分、ウイルス

を保持した蚊が偶然にも航空機でニューヨークにまで運ばれた結果によるものでしょう。私も、過去にヨーロッパ・日本間を南回りで乗り継ぎの旅を何度かした事がありますが、機内に蚊がいたのを記憶しています。多くの人が仕事やレジャーで海外に出かける機会が増えましたが目に見えない病原体の移動も今まで以上に増大していると内心心配しております。私の考えが取り越し苦労であれば実に幸いです。

トピックス



平成12年度11月14日、本学獣医学科・長谷川 篤彦教授がめでたく紫綬褒章を受章されました。この褒章は「学術・芸術上の発明・改良・制作に関し事業著明なもの」に贈られるものですが、長谷川先生の真菌研究に対する真摯な努力と数多くの業績が認められた結果であります。心よりお祝い申し上げます。

長谷川先生は、平成10年3月に東京大学教授を停年・退官後、日本大学生物資源科学部獣医学科獣医臨床病理学研究室に教授として就任されました。先生は大学院のころから動物の真菌症を多面的に研究し、今日まで多くの業績をあげ国際的にも高く評価されています。先生は人獣共通感染症の皮膚糸状菌症の原因菌種、その動物における発生状況、牛の疣状白癬菌、犬猫のイヌ小胞子菌および毛癬白癬菌による疾病の動物や人の疫学を明らかにするとともに、それらの予防・治療法を開発されました。さらに、イヌ小胞子菌、石膏状小胞子菌、毛癬白癬菌の有性世代と交配型、動物のクリプトコックス症、カンジダ症、アスペルギルス症の発症に、解剖学的な特質(鳥類の気囊、馬の喉嚨、犬や猫の趾間など)、不適切な飼育管理、抗生物質や免疫抑制剤、基礎疾患の存在等が関与していることを解明されました。さらに最近では、分子生物学的手法を用いた病原真菌の分類や動物の真菌症の遺伝子診断法を開発される等、現在も精力的に研究を続けておられます。

研究室紹介

魚病学研究室

1. 研究室のメンバー

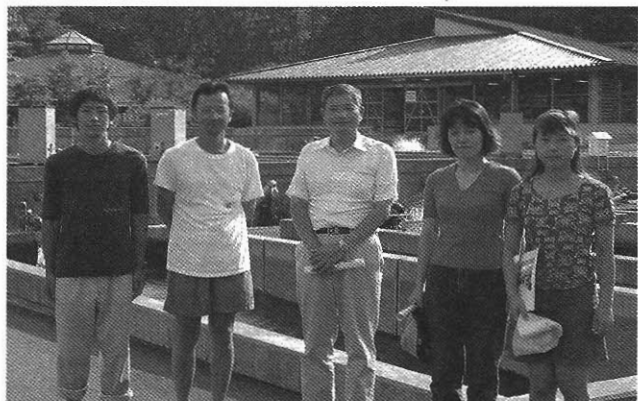
教授：中西照幸

専任講師：森友忠昭

6年次学生：10名

5年次学生：9名

4年次学生：8名



2. 研究方針と内容…比較免疫学的観点から、魚類の免疫・生体防御に関連した幅広い分野の研究を行っています。重点課題は、魚類免疫関連細胞の分離・同定及び培養技術の開発、魚類の細胞性免疫機構及び内外の環境要因の免疫応答に及ぼす影響の解析です。研究室の学生には、卒論の成果を学会で発表することを目標に、卒論研究を通して自主的に問題を解決する能力を修得して欲しいと考えています。

(卒論テーマ一覧)

6年生：①魚類の自動血球解析法の確立

②コイ好塩基球の機能解析

③コイ免疫グロブリン遺伝子再構成機構の解明

④環境ホルモンのアッセイ法の検討

⑤クローンヒラメ由来細胞株の樹立など

5年生：①クローンギンブナを用いた細胞性免疫機能検査法の確立

②造血細胞の培養による免疫細胞の分化・成熟解析

③ニジマスサイトカイン遺伝子の発現解析

④は乳類サイトカインの魚類神経系及び内分泌系に及ぼす影響

⑤コイ免疫グロブリンアイソタイプの機能解析

⑥仔稚魚期における非特異的生体防御能力の発達

⑦鳥類・爬虫類の自動血球解析法の検討

4年生：①アユリンパ球の性成熟及び加齢に伴う変化

②ニジマスサイトカイン及びMHC遺伝子産物に対するモノクローナル抗体の作製など

総会資料

監査報告書

会則第10条第5項の規定により、平成11年度（平成11年4月1日より平成12年3月31日まで）の角笛会業務監査の結果、会長より提出された業務報告ならびに収支決算書は、適正と認めましたので報告いたします。

平成12年5月19日

角笛会

監事 小暮 規夫



監事 飯塚 達人



監事 岡野 真臣



平成11年度一般会計収支決算報告書

自 平成11年4月1日 至 平成12年3月31日

収入の部

(円)

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考
I. 支部会員費	1,300,000	1,233,000	△ 67,000	1,233人分
今年度分	1,000,000	1,094,000	94,000	
過年度分	300,000	139,000	△ 161,000	
II. 終身会員費	1,500,000	1,240,000	△ 260,000	62人分
III. 新入会員費	1,300,000	1,470,000	170,000	学部後援会
IV. 学部校友会交付金	200,000	190,000	△ 10,000	学部より
V. 懇親会参加費	300,000	315,000	15,000	
VI. 寄付金	0	0	0	
VII. 預金利子	4,309	1,126	△ 3,183	
当期収入合計 (A)	4,604,309	4,449,126	△ 155,183	
前期繰り越し額	1,915,691	1,915,691	0	H11総会決議より
収入合計 (B)	6,520,000	6,364,817	△ 155,183	

支出の部

(円)

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考
I. 経常費	3,960,000	2,512,671	1,447,329	
1. 会合費	800,000	567,776	232,224	懇親会、会議等
2. 交際費	200,000	359,470	△ 159,470	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	660,000	632,737	27,263	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	800,000	212,653	587,347	通信
5. 事務局運営費	1,500,000	740,035	759,965	給与、ソフト等
II. 会報費	700,000	647,367	52,633	会報15号
III. 名簿作成繰入金	300,000	0	300,000	
IV. 名簿管理費	300,000	0	300,000	
V. 卒業生記念品費	400,000	158,109	241,891	平成11年度卒業生
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第37回日大獣医学会
VII. 将来事業基金	300,000	0	△ 300,000	
VIII. 予備費	360,000	0	△ 360,000	
当期支出合計 (C)	6,520,000	3,518,147	3,001,853	
当期収支差額 (A-C)	△ 1,915,691	930,979	2,846,670	三菱銀行
次期繰越収支差額 (B-C)	0	2,846,670	2,846,670	

平成11年度特別会計I 収支決算報告書(名簿会計)

自 平成11年4月1日 至 平成12年3月31日

収入の部

(円)

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	0	△ 300,000	
II. 預金利子	13,224	25,768	12,544	大和証券/定期
III. 繰越差額	0	6,088	6,088	大和証券
当期収入合計 (A)	313,224	31,856	△ 281,368	
前期繰越額	3,486,776	3,486,776	0	
収入合計 (B)	3,800,000	3,518,632	△ 281,368	

一般会計より=30万積立(50万の所30万とした)

支出の部

(円)

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考
I. 名簿印刷費	0	0	1,628,000	
II. 送料	0	0	125,313	
III. 名簿作成費	3,490,000	0	3,490,000	
IV. 予備費	310,000	0	310,000	
当期支出合計 (C)	3,800,000	0	5,553,313	
前期繰越額	3,486,776	3,492,864	912,237	
当期収支差額 (A-C)	△ 3,486,776	31,856	3,518,632	

平成11年度特別会計Ⅱ 収支決算報告書(支援基金・将来事業資金)

自 平成11年4月1日 至 平成12年3月31日

収入の部 (円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	0	△ 300,000	
II. 預金利子	36,177	69,990	33,813	大和証券／定期
当期収入合計 (A)	336,177	69,990	△ 266,187	
前期繰越収支差額	7,663,823	7,663,823	0	
ANMEC支援基金	2,621,823	2,874,539	252,716	
将来事業基金	5,042,000	4,789,284	△ 252,716	
収入合計 (B)	8,000,000	7,733,813	△ 266,187	

支出の部 (円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
I. 研究助成費	500,000	300,000	△ 200,000	津曲先生へ
II. 外国専門医招聘料	500,000	150,000	△ 350,000	Dr.Olsenへ
予備費	1,658,000	630	△ 1,657,370	手数料
将来事業基金	5,342,000	0	△ 5,342,000	
当期支出合計 (C)	8,000,000	450,630	△ 7,549,370	
当期収出差額 (A-C)	△ 7,663,823	△ 380,640	7,283,183	
次期収支繰越差額 (B-C)	0	7,283,183	7,283,183	

平成12年度一般会計 予算

自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日

収入の部 (円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 支部会員費	1,300,000	1,300,000	0	1,300名@1,000円
今年度分	1,000,000	1,000,000	0	
過年度分	300,000	300,000	0	
II. 終身会員費	1,300,000	1,500,000	△ 200,000	65名@20,000円
III. 新入会員費	1,670,000	1,300,000	370,000	学部後援会
IV. 学部校友会交付金	200,000	200,000	0	学部より
V. 懇親会参加費	300,000	300,000	0	60名@5,000円
VI. 寄付金	0	0	0	
VII. 預金利子	3,330	4,309	△ 979	
VIII. その他	0	0	0	
当期収入合計 (A)	4,773,330	4,604,309	169,021	
前期繰り越し額	2,846,670	1,915,691	930,979	
収入合計 (B)	7,620,000	6,520,000	1,100,000	

支出の部 (円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 経常費	4,720,000	3,960,000	760,000	
1. 会合費	1,000,000	800,000	200,000	懇親会、会議等
2. 交際費	500,000	200,000	300,000	支部総会等祝い金
3. 旅費交通費	870,000	660,000	210,000	支部総会等旅費
4. 通信運搬費	800,000	800,000	0	通信
5. 事務局運営費	1,550,000	1,500,000	50,000	給与、ソフト等
II. 会報費	800,000	700,000	100,000	会報16号
III. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	特別会計Ⅰへ
IV. 名簿管理費	300,000	300,000	0	業務委託等
V. 卒業生記念品費	500,000	400,000	100,000	平成12年度卒業生
VI. 学会補助費	200,000	200,000	0	第38回日大獣医学会
VII. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	特別会計Ⅱへ
VIII. 組織拡充費	140,000	0	140,000	情報ネット化調査費
予備費	360,000	360,000	0	
当期支出合計 (C)	7,620,000	6,520,000	1,100,000	
当期収支差額 (A-C)	△ 2,846,670	△ 1,915,691	△ 930,979	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	0	0	

総会資料

平成12年度特別会計Ⅰ 予算（名簿会計）

自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日

収入の部 (円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 名簿作成繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 預金利子	21,368	13,224	△ 8,144	
当期収入合計 (A)	321,368	313,224	△ 8,144	
前期繰り越し額	3,518,632	3,486,776	△ 31,856	
収入予算合計 (B)	3,840,000	3,800,000	△ 40,000	

支出の部 (円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 名簿印刷費	0	0	0	
II. 送料	0	0	0	
III. 名簿作成積立金	3,530,000	3,490,000	40,000	
IV. 予備費	310,000	310,000	0	
当期支出予算合計 (C)	3,840,000	3,800,000	40,000	
当期収支差額 (A-C)	△ 3,518,632	△ 3,486,776	△ 31,856	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	0	0	

平成12年度特別会計Ⅱ 予算（支援基金・将来事業資金）

自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日

収入の部 (円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 将来事業繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
II. 預金利子	16,817	36,177	△ 19,360	
当期収入合計 (A)	316,817	336,177	△ 19,360	
前期収支繰越差額	7,283,183	7,663,823	△ 380,640	
1. ANMEC支援基金	2,633,183	2,621,823	11,360	
2. 将来事業基金	4,650,000	5,042,000	△ 392,000	
収入予算合計 (B)	7,600,000	8,000,000	△ 400,000	

支出の部 (円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	差 額	備 考
I. 研究助成費	500,000	500,000	0	ANMEC関係
II. 外国専門医招聘料	150,000	500,000	△ 350,000	ANMEC関係
III. 予備費	2,300,000	1,658,000	642,000	
IV. 将来事業基金	4,650,000	5,342,000	△ 692,000	
当期支出合計 (C)	7,600,000	8,000,000	△ 400,000	
当期支出差額 (A-C)	△ 7,283,183	△ 7,663,823	△ 380,640	
次期繰越収支差額 (B-C)	0	0	0	

角笛会会費について

角笛会は、本学獣医学科(本学の前身校を含)卒業生全てを構成員とする校友・同窓組織です。
角笛会会費は、本部年会費(千円/年)と支部会費(各会員御所属の支部：一般的には居住都道府県支部、もしくは最寄りの支部で通例年会費として規定)とを納めて戴くことになっております。但し、平成5年3月以後の卒業生より、終身会員制度(終身会員費：二万円)が満足致しております。角笛会会費は以下の様です。

非終身会員 本部年会費：千円/年 支部会費：各支部での規定額を支部に納入(本部宛年会費は、支部徴収を原則とします)

終身会員 本部年会費：納入の必要無し 支部会費：各支部での規定額を支部に納入
上記以前に卒業期日を持ち、終身会員を希望する会員はその旨を本部、または各支部事務局まで御通知下さい。直接本部宛お申込みの場合、登録後直ちに支部事務局へお知らせ致します。

各支部にて、新規終身会員を受付けの際には、終身会員費中25%を、事務経費として御査収の上、残額を本部まで御送金下さい。

口座番号(銀行口座による御送金では、恐れ入りますが必ず電信扱いを御使用下さい)。

支部からの送金(本部年会費用)：

東京三菱銀行

店番197(湘南台支店) 普通0235676

日本大学 角笛会 銀行電話番号：0466-43-9521

郵便振替口座(新設：本部年会費用)

(口座番号)00230-3-53795 (名義)角笛会

終身会員費送金用：

東京三菱銀行

店番197(湘南台支店) 普通0235689

角笛会 銀行電話番号：同上

編集後記

昨年は「ノストラダムスの大予言」では地球が滅亡するはずでした。今年に入り、日本では有珠山、三宅島、北海道駒ヶ岳等の火山が噴火したり、鳥取県では大きな地震もありました。また、東海地方の大雨の災害もひどいものでした。地球の歴史からいったら1年なんてほんの誤差のまた誤差範囲ですから、ノストラダムスさんもそうはずれたことは言い込んでいなかったことになりますね。最近ではそういった自然災害よりも少年犯罪に象徴されるような人の心の破滅、地域紛争等の人間社会の滅亡が身近に迫っているような気がしてなりません。

21世紀の地球はいったいどうなるのでしょうか…？

2000年10月31日(丸山総一昭 和57年卒)